

## 1 調査研究の進め方

### 1.1 調査研究目的

本調査研究は、大阪湾における台風来襲時の高潮による水位の上昇に伴う錨泊船舶の係駐力の変化を錨泊シミュレーションにより検証し、外力条件、船型及び錨泊方法等の異なる諸条件における錨泊状況を整理することにより、台風来襲に伴う走錨海難の防止を図ることを目的とする。

### 1.2 調査研究に至る背景等

当会においては、これまで長期間にわたり大阪湾における台風避泊に関する情報を収集し、蓄積された台風関連のデータを整理し、船舶運航実務上の参考資料に取りまとめ、広く周知してきている。

このような中、平成30年9月には台風21号が近畿地方に來襲し、それまでの大阪湾内各港での最高潮位とされた第二室戸台風(昭和36年台風18号)を上回る高潮に見舞われ、湾内に避泊中の船舶にも大きな影響があったと推察されます。

一般に錨泊するに当たっては、錨地の水深に応じて使用錨鎖の長さが設定されているが、台風による高潮によって海図に記載の水深より実際の水深が大きく増加した場合、錨泊船舶がどのような影響を受けるのかについては、必ずしも十分検討がなされていないものと考えられる。

そこで、大阪湾において台風避泊を行っている船舶が、台風による高潮によってどのような影響を受けるのか、錨泊シミュレーションによってより具体的に検証を行い、その結果を基に台風避泊に必要となる留意事項を取りまとめ、走錨海難の防止を図って、海上交通の安全確保に寄与しようとするものとしたものである。

### 1.3 調査研究名

「大阪湾における台風来襲時の走錨海難の防止に関する調査研究」とする。

### 1.4 委員会の設置

学識経験者、海事实務者及び関係官公庁職員からなる「大阪湾における台風来襲時の走錨海難の防止に関する調査研究委員会」を設置する。

### 1.5 査研究項目

- (1) 大阪湾における自然環境等
- (2) 大阪湾における台風来襲時の状況
  - ① 大阪湾に來襲した台風の状況
  - ② 大阪湾における台風避泊の状況
- (3) 台風避泊に係る錨泊シミュレーションを用いた台風来襲時の高潮が錨泊船舶の係駐力に



## 1.8 調査研究の流れ

調査研究フローを図 1.8.1に示す。

### 第1回委員会（8月中旬頃）

- ① 調査研究方針
- ② 大阪湾における自然環境等
- ③ 大阪湾における台風来襲時の状況
- ④ 台風避泊に係る錨泊シミュレーション実施方案



### 【錨泊シミュレーション】



### 第2回委員会（10月中旬頃）

台風避泊に係る錨泊シミュレーション実施結果の分析・整理



### 第3回委員会(12月中旬頃)

- ① 錨泊シミュレーション結果からの台風来襲時の高潮が錨泊船舶の係駐力に与える影響
- ② 台風避泊における留意事項
- ③ 報告書の構成

図 1.8.1 調査検討フロー

## 1.9 委員会の開催状況

### 1.9.1 第1回委員会

- 1 日 時 令和元年8月19日（月）13:25～15:40
- 2 場 所 ラッセホール リリーの間
- 3 議 題
  - (1) 調査研究方針について
  - (2) 大阪湾における自然環境等について
  - (3) 大阪湾における台風来襲時の状況について
  - (4) 錨泊シミュレーション実施方案について

### 1.9.2 第2回委員会

- 1 日 時 令和元年10月24日（木）13:25～15:30
- 2 場 所 ラッセホール リリーの間
- 3 議 題  
台風避泊に係る錨泊シミュレーション実施結果の分析・整理について

### 1.9.3 第3回委員会

- 1 日 時 令和元年12月23日（月）14:55～17:25
- 2 場 所 ラッセホール リリーの間
- 3 議 題
  - (1) 錨泊シミュレーション結果からの台風来襲時の高潮が錨泊船舶の係駐力に与える影響について
  - (2) 台風避泊における留意事項について
  - (3) 報告書の構成（案）について